



2014年12月4日

お客様向け資料

BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き上げについて

ブラジル中央銀行は、現地 2014 年 12 月 2 日および 3 日に COPOM(定例金融政策委員会)を開催し、Selic(政策金利)を 11.25%から 11.75%に引き上げることを決定しました。政策金利の引き上げは、今年 10 月に続いて 2 会合連続となります。市場では、政策金利の引き上げ幅を 0.25%か 0.50%と予想していました。ブラジル中央銀行は声明文の中で、今回の利上げの背景を、前回に続いて国内のインフレリスクを抑制するためと説明しています。

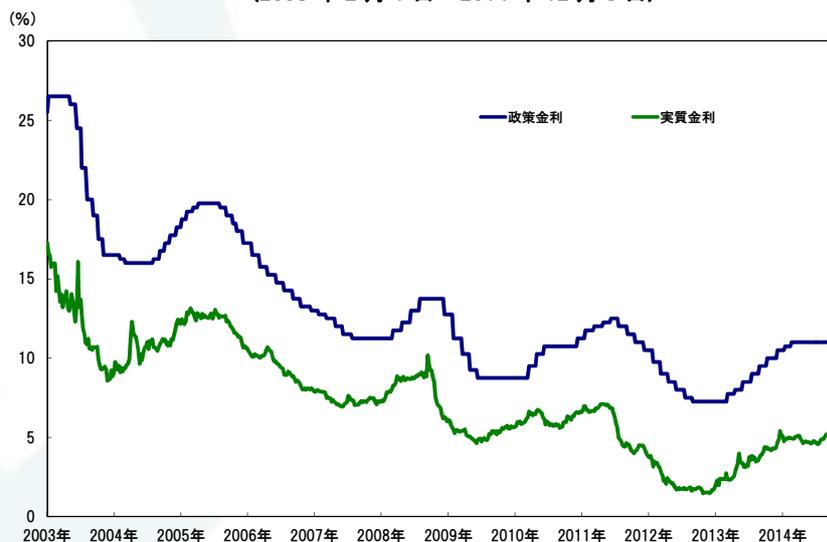
ブラジルでは、インフレに対する懸念が消えていません。10 月の拡大消費者物価指数(IPCA)の上昇率は前月比で 0.42%と 9 月より上昇率が鈍化したものの、前年同月比で 6.59%上昇し、中央銀行の目標の上限(6.5%)を上回っています。インフレ率がブラジル中央銀行の目標値を上回ったのは 2014 年 10 月で 5ヶ月連続となります。

ブラジル中央銀行は 2013 年 4 月以降、政策金利を今回の 0.50%を含めて計 4.50%引き上げましたが、ブラジル景気の低迷は続き、2014 年第 3 四半期(7-9 月期)の GDP 成長率は前期比+0.1%、前年同期比-0.2%、年初累計比でも+0.2%に留まっています。第 3 四半期の成長率が前期比で僅かながらプラスだったことで、リセッションは回避できたものの、依然として景気低迷から脱せずにあります。また、10 月の鉱工業生産も前年同月比-3.6%と市場予想の同-3.0%や前月の同-2.1%を下回るなど経済環境は更に悪化しています。

為替市場では、第 2 次ルセフ政権メンバーの正式発表直後には通貨レアルが買われたものの、新財務大臣が市場重視の大臣ではないとの評判が浮上したことや、経常収支を含む経済指標の悪化、ブラジル中央銀行による為替介入の終焉などの要因でレアルは対米ドルで売られています。

景気低迷の中での利上げは、景気の更なる悪化を招く可能性もありますが、ルセフ大統領はインフレリスクを抑制することを最優先課題と位置づけています。そのため、ブラジル中央銀行は、インフレ率が目標(4.5%±2%)の上限(6.5%)の水準に低下するまで利上げを継続すると予想されます。

＜ブラジル政策金利と実質金利の推移＞
(2003年2月1日～2014年12月3日)



2014年12月3日
11.25%→11.75%へ
0.50%の引き上げ

*政策金利：Selic を使用 *実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出 (データ出所：ブラジル中央銀行)

本資料は、BNP パリバ アセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解等を提供することを目的として、上記の時点に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。